

別記様式2

副専攻プログラム説明書

開設学部（学科）名〔生物生産学部（生物生産学科）〕

| | |
|--|---------------------|
| プログラムの名称 | (和文) 動物生産科学副専攻プログラム |
| | (英文) Animal Science |
| <p>1. プログラムの紹介と概要</p> <p>動物生産科学副専攻プログラムでは、1) 動物の成長に関わる遺伝子、2) 受精の分子生物学的メカニズム、3) 脳内および消化器官におけるホルモンネットワークを介した動物の行動、4) 恒常性維持機構など、それぞれの教育科目で実施されている最先端の研究内容を含めた講義を通して、動物の生存、子孫を残すメカニズムを理解します。</p> | |
| <p>2. プログラムの到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 動物を生産・利用する上で必要となる基礎的知識を修得することを目的とします。 | |
| <p>3. プログラムの履修時期・要件</p> <p>(1) 履修開始時期とプログラム登録時期</p> <p>プログラムの履修開始時期は3セメスターからです。また、プログラムの登録は、履修開始前（事前登録）とします。</p> <p>(2) プログラム選択のための既修得要件(履修科目名及び単位数等)</p> <p>本プログラムは、本学のすべての学生に開かれています。本プログラム選択のための既修得要件はありません。</p> <p>(3) 履修上の注意点</p> <ul style="list-style-type: none"> 動物の生産・利用に興味を持っていることが必要条件です。 | |
| <p>4. 教育内容・構造</p> <p>本プログラムでは、別添履修表に示す「教養教育科目」、「専門基礎科目」を履修することにより、動物生産に関する基礎知識を修得した後、6つの教育科目（家畜遺伝育種学、家畜生殖学、家畜飼養学、家畜管理学、家畜生体機構学、西条ステーション（農場））に所属する教員が実施する専門科目において専門知識と応用力を養います。</p> | |
| <p>5. 授業科目及び授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業科目は、別添の履修表を参照すること。 授業内容は、各年度に公開されるシラバスを参照すること。 | |

6. 評価

(1) 試験・成績評価

各授業科目における試験・成績評価基準に基づく。

(2) 修了判定の基準

「5. 授業科目および授業内容」に示す授業科目のうち、22単位を修得すること。

7. プログラムの責任体制

動物生産科学副専攻プログラム担当教員会

8. プログラムの受入上限数

10名

9. プログラムの既修得単位等の認定単位数等

(1) 他大学等における既修得単位等の認定単位数等

8単位

(2) 広島大学における既修得単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)の認定単位数等

8単位

【副専攻プログラム履修に関する注意事項】

○主専攻プログラムの授業時間割の関係で、登録した副専攻プログラムの授業科目履修が制限されることがある。

○副専攻プログラムで開設されている授業科目も、本学共通の平均評価点(GPA)の計算対象に含まれる。

動物生産科学副専攻プログラム履修表

| 区分 | 授業科目 | 単位数 | 履修期 | 要修得単位数 |
|--------|---------------|-----|-----|--------------|
| 教養教育科目 | 生命・食・環境のサイエンス | 2 | 3 | 2 |
| 専門基礎科目 | 動物生産サイエンス入門 | 2 | 3 | 2 |
| | 生化学入門 | 2 | 4 | 2 |
| | 分子生物学入門 | 2 | 3 | 2 |
| 専門科目 | 動物遺伝育種学 | 2 | 6 | このうちから14単位以上 |
| | 動物生殖学 | 2 | 6 | |
| | 動物栄養学 | 2 | 6 | |
| | 動物生体機構学 | 2 | 6 | |
| | 動物環境生理学 | 2 | 7 | |
| | 動物福祉論 | 2 | 7 | |
| | 実験動物学 | 2 | 8 | |
| | 家畜管理学 | 2 | 8 | |
| 合 計 | | | | 22 |